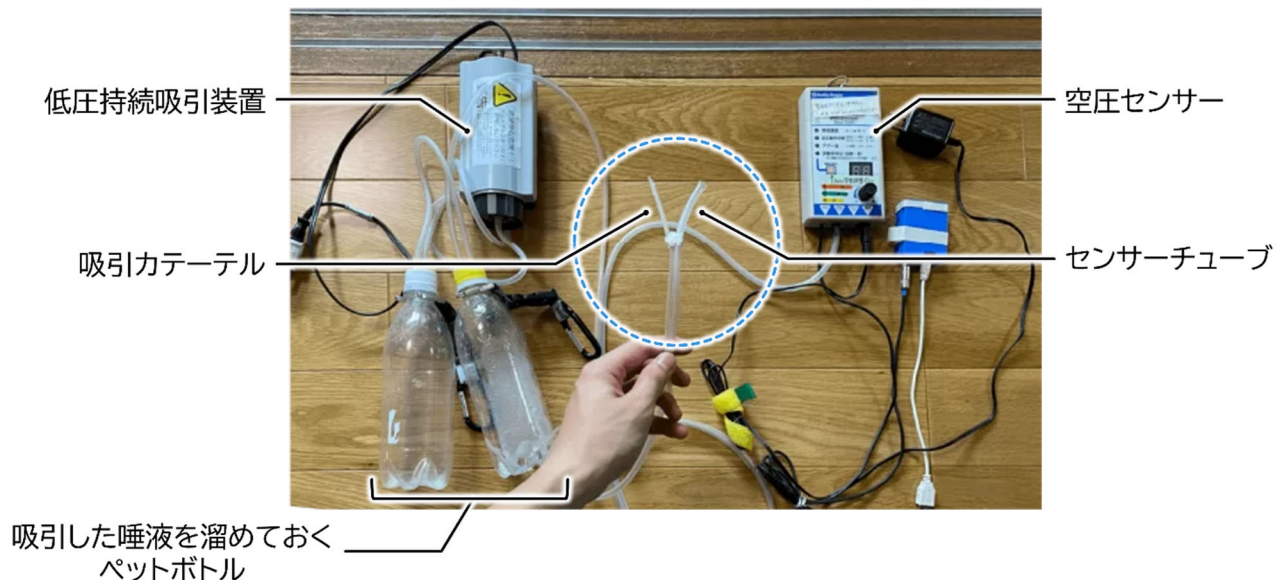


センサーチューブの作成方法と吸引カテーテルとの連結方法

▼空圧センサー



この資料では、センサーチューブの作成方法と、チューブに吸引カテーテルを連結させる方法を紹介します。

編集部注記：写真の空圧センサーは「ピエゾニューマティックセンサースイッチ PPS スイッチ」です。今回ご紹介する方法は、執筆者個人の見解・経験によるものです。PPS スイッチのチューブを嚙んで操作することは個人の能力に依存し、メーカーが推奨する使用方法ではありません。

準備するもの

- 水槽専用のエアーチューブ（水槽チューブ）
- ヘアアイロン（アイロンであれば何でも可）
- オープンシート
- 洗濯ばさみ
- 輪ゴム
- 固めの紙（プラ板も可。今回はプラ板を使用）
- 爪やすり
- はさみ

吸引カテーテルと連結する場合：

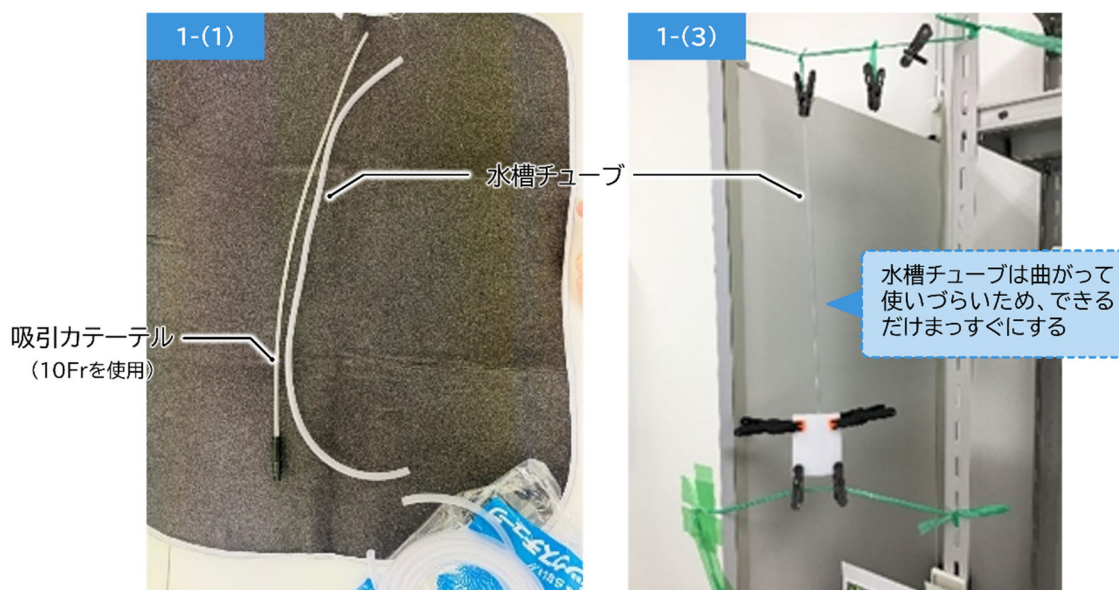
- 糸フロス
- 吸引カテーテル
- 予備のチューブ（水槽チューブをカットしたもの）



【センサーチューブの作成方法】

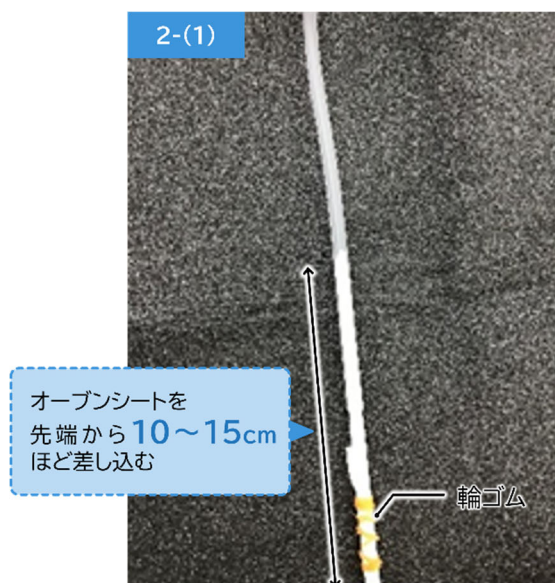
1. 水槽チューブのねじれを直す

- (1) 水槽チューブを吸引カテーテルと同じ長さにカットする。
- (2) 水槽チューブ全体をオープンシートで包み、高温（約 185℃）に設定したヘアアイロンで数回滑らせるように温める。
- (3) そのまま伸ばした状態で、数日固定する。



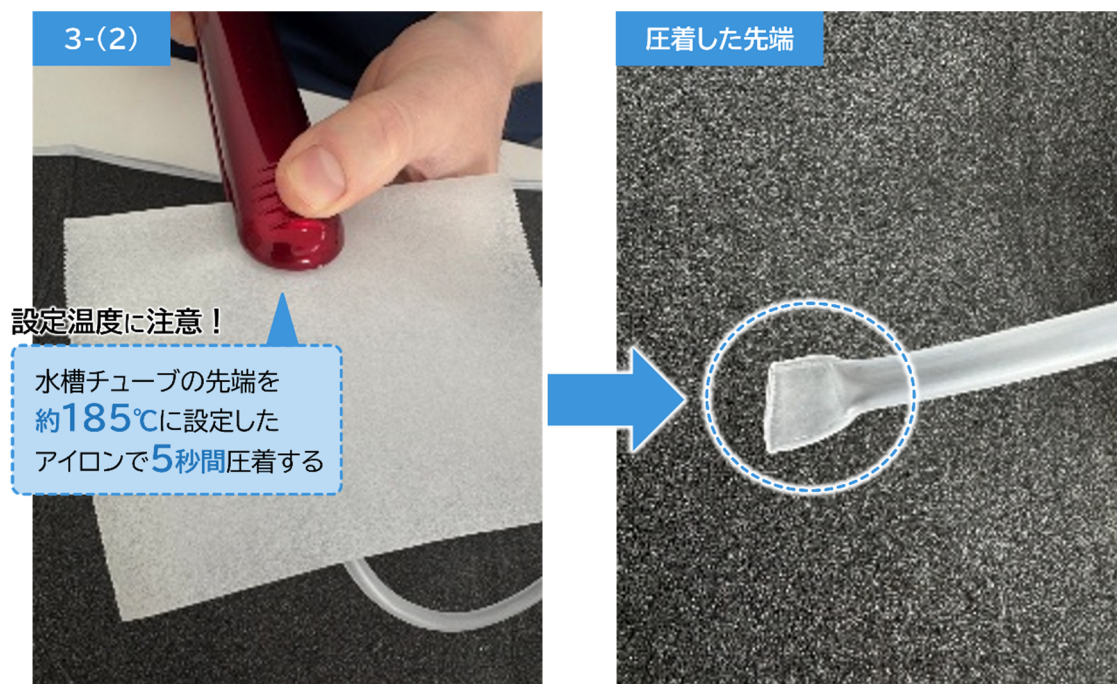
2. 水槽チューブの先端 5cm ほどを平らにする

- (1) 水槽チューブの先端から 10～15cm ほどオープンシートを差し込む。シートのはみ出た部分はチューブの外側に折り返し、抜け落ちないように輪ゴムで固定しておく。
- (2) チューブの先端 5cm ほどをオープンシートで包み、高温（約 185℃）に設定したヘアアイロンを 5 回ほど滑らせて温める。
- (3) 温めた後すぐにプラ板で先端を挟み、そのまま 1 日程度固定する（より薄くしたい場合はこの工程を数回実施する）。



3. 水槽チューブの先端を閉じる

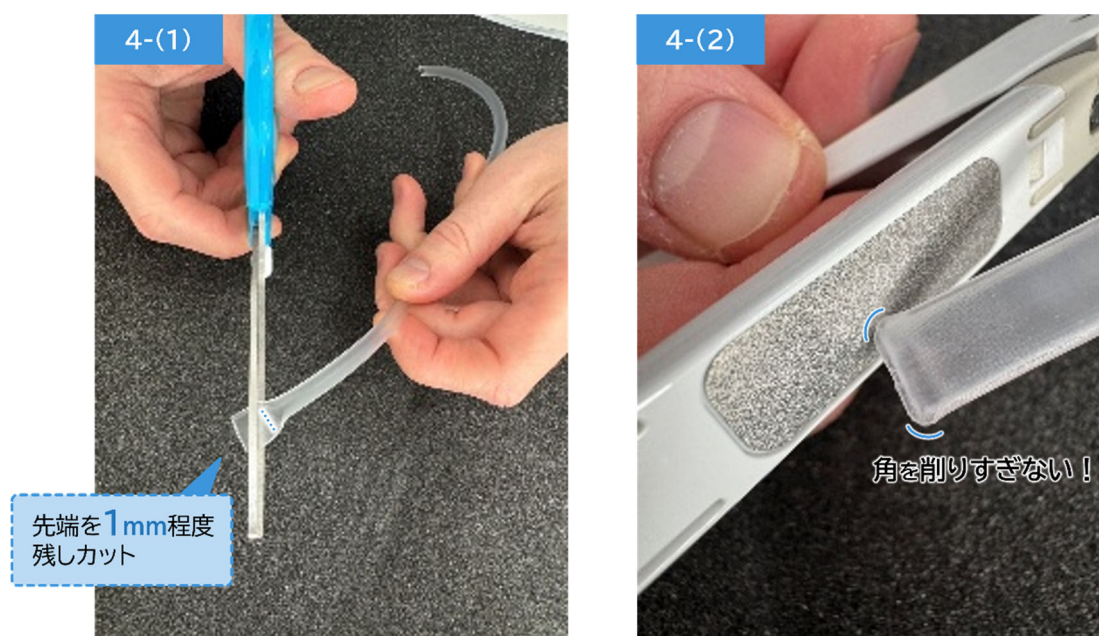
- (1) 水槽チューブの先端に差し込んでいたオープンシートを抜き、先端を再度オープンシートで包む。
- (2) チューブの先端を高温（約 185℃）に設定したアイロンで挟み、5 秒ほど圧着し、完全に閉じる。
〈注意〉このとき温度が高すぎるとチューブが溶ける恐れがある。逆に低すぎると白くなり圧着できないため、アイロンの設定温度に注意する。



4. チューブの先端を整える

- (1) 圧着した部分を 1mm 程度残して、先端をはさみでカットする。
- (2) 角を爪やすりで滑らかに整える。

〈注意〉口腔内に入れる部分なので丁寧に整える。ただし、削りすぎると破損してしまうため注意する。

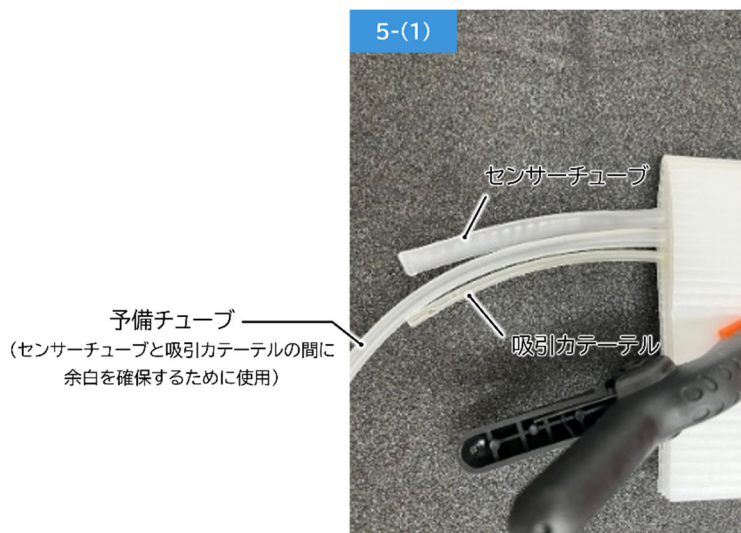


※ここからは「水槽チューブ」を「センサーチューブ」と表記します。

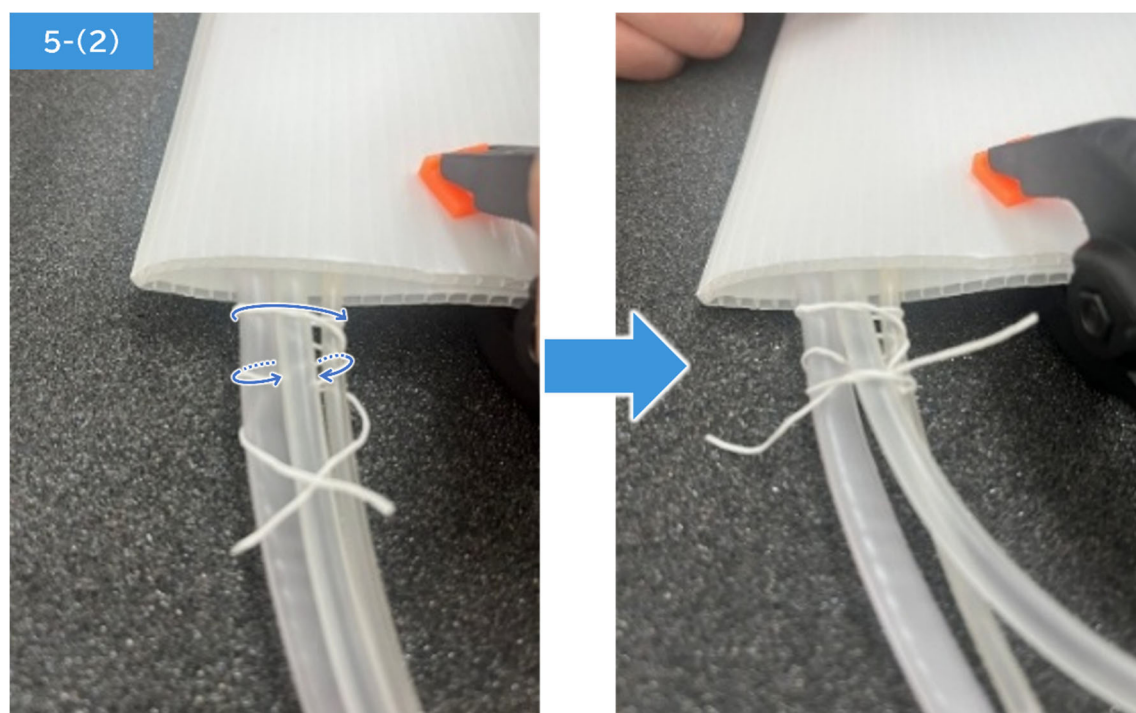
【センサーチューブと吸引カテーテルの連結】

5. センサーチューブを吸引カテーテルと Y 字に連結する

- (1) 吸引カテーテル、予備のチューブ、センサーチューブを並列に並べる。予備のチューブはチューブ 1 本分の余白を確保するために使用する。固定しておくとな作業がしやすい。



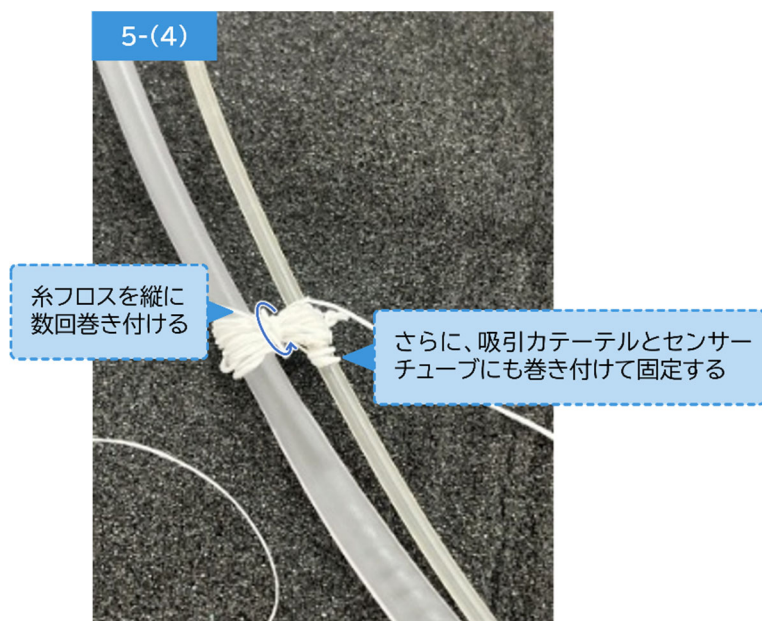
- (2) 糸フロスを 15cm ほど切り出し、3 本のチューブをまとめて巻き付け、センサーチューブと吸引カテーテルにもそれぞれ数回巻き付けて固定する。



- (3) 同じようにもう 2 ヲ所、糸フロスで固定する（全部で 3 ヲ所固定する）。なお、先端に近づくにつれて巻き付ける回数を減らし、かつ緩めに巻いていく。



- (4) 予備チューブを抜き取り、吸引カテーテルとセンサーチューブの間を、糸フロスで数回縦に巻き付ける。さらに吸引カテーテルとセンサーチューブにも数回巻き付けて固定する。



- (5) 幅を確認し、問題なければ、Y字連結の完成。



「なごみ訪問看護ステーション」が撮影と制作に協力してくれました。